

第 33 回国際胚移植学会開催のお知らせ

第 33 回国際胚移植学会の開催

日時：平成 19 年 1 月 5 日～1 月 10 日

場所：国立京都国際会館

講演要旨締め切り：平成 18 年 8 月 1 日 (<http://www.iets.org/2007/callforabstracts.htm>)

事前登録締め切り：平成 18 年 12 月 1 日

登録は日本胚移植研究会ホームページより (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/iets/jets/>)

会議の詳細は、以下のサイトをご覧ください (<http://www.iets.org/2007/index.asp>)

お問い合わせ：

第 33 回国際胚移植学会事務局

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科生殖生物学分野

Tel: 075-753-6330, Fax: 075-753-6329

e-mail: iets2007@kais.kyoto-u.ac.jp

大会概要：

・1 月 5 日 (金) : 17:30 – 19:00

市民フォーラム (中学・高校・大学生・一般対象、同時通訳付)

細胞から個体へ ドリー誕生 10 年の歩みー

キース・キャンベル教授 (ノッティンガム大学・イギリス)

京都大学時計台百周年記念ホール

・1 月 6 日 (土) : 8:00 – 17:30

1) プレコンファレンス・シンポジウム I (クローン動物および遺伝子組換え動物の安全性とその評価システム、同時通訳付)

2) プレコンファレンス・シンポジウム II (胚移植および先端技術へ利用可能な胚の質的改善)

3) ウェルカムレセプション (立食形式・無料)

・1 月 7 日 (日) : 9:30 – 17:30

1) 開会式

2) セッション I (午前): 卵胞卵の品質

卵胞卵の品質評価 Qing-Yuan Sun (China)

家畜における卵胞卵の品質と凍結保存技術の改良 Sergio Ledda (Italy)

3) セッション II (午後): 初期発生の遺伝的制御

母性効果遺伝子の卵胞卵および初期胚における発現と機能 Nam-Hyung Kim (Korea)

発生初期の遺伝子発現パターン – ゲノムの活性化と細胞分化 Tiziana A.L. Brevini (Italy)

4) スチューデント・コンペティション

5) ポスターセッション I

・1月8日(月): 8:30 – 19:30

1) セッション III (午前): 胚生産に及ぼす要因

胚の長期培養 Jeremy Thompson (Australia)

家畜の栄養条件の胚や胎子発生に及ぼす影響 Michael Symonds (UK)

2) セッション IV (午後): 着床・受胎

プロゲステロン、インターフェロン、内因性レトロウイルスによる、妊娠認識および受胎機構 Thomas E. Spencer (USA)

ウシにおける受胎維持と遺伝子発現 特に栄養膜細胞特異因子の役割について Kazuyoshi Hashizume (Japan)

3) 国際胚移植学会賞 (パイオニア・アワード) の授与式

4) ポスターセッション II

・1月9日(火): 8:30 – 21:30

1) セッション V (午前): 家畜生産と精子の評価

家畜における精液の評価に関する現状 Heriberto Rodriguez-Martinez (Sweden)

雌生殖器官の精子との相互作用 Susan Suarez (USA)

2) ランニング・コンペティション (会場周り 5 km のランニング)

2) セッション VI (午後): 特別講演

初期発生の細胞生物学的・分子生物学的考察 Janet Rossant (Canada)

4) プラクティショナー・フォーラム (乳牛の受胎率向上に向けた胚移植技術の利用、同時通訳付)

5) スチューデント・コンペティション アワード授与式

6) 閉会式

7) バンケット (バンケット終了後ダンスパーティー)

・1月10日(水): 8:00 – 20:00

1) ポスト・コンファレンス・シンポジウム (先端技術を支える家畜生産基盤技術の現状; 同時通訳付)

セッション I: 過剰排卵処理および OPU による卵子の採取

過剰排卵と卵胞波の制御 R. J. Mapletoft (Canada)

OPU を用いた効率的な胚生産 K. Imai (Japan)

未成熟および成熟牛への OPU 技術の応用 H. Niemann (Germany)

セッション II: 体外培養システムにおける卵胞卵および胚の品質制御

卵成熟と品質における成長因子シグナル伝達系の役割 K. P. McNatty (New Zealand)

ウシ胚の品質：卵胞卵の由来および培養条件が体外受精胚の遺伝子発現と発生能に及ぼす影響 P. Lonergan (Ireland)

体外生産胚の非侵襲的手法による品質評価 H. Abe (Japan)

ランチ

セッション III: 胚の凍結保存と凍結胚の商業的利用

体外操作胚の凍結保存 S. P. Leibo (USA)

家畜生産現場における凍結保存胚の有効利用 O. Dochi (Japan)

ウシ胚の超急速凍結法とダイレクト胚移植法 G. Seidel (USA)

日本における体外成熟、体外受精、凍結保存後の黒毛和種の大量生産システム S. Hamano (Japan)

セッション IV: 体外操作胚の初期胚死滅と妊娠維持機構

初期胚発生過程の栄養膜細胞形成のメカニズム R. M. Roberts (USA)

家畜の初期妊娠過程における胎子と母体環境との相互作用 T. Ezashi (Japan)

ウシにおける子宮 - 胎盤間相互作用の欠失 T. R. Hansen (USA)

乳牛における妊娠維持の改善 W. W. Thatcher (USA)

2) レセプション (立食形式懇親会)